

## 淡色黒ボク土



十勝管内の淡色黒ボク土に分類される畑の土壌断面です。

前出の多湿黒ボク土よりも排水性の良い場所に現れますが、同様に非常にやせた火山性土の一種で、明治の開墾当初、作物は全く育たず、また水の便も非常に悪い、「高台」と称して入植者には敬遠されていた土地に広く分布しております。

このような農地で農業生産が可能となったのは、明治期後半に化学肥料(過燐酸石灰: 獣骨を硫酸で処理)が登場してからでした。

昭和40年代以降、土地改良事業による本格的な排水改良の開始と相まって、化学工業の隆盛とともに十分な土壌改良資材の投入が可能となったことから、黒ボク土が分布する広大な台地が優良農地へと生まれ変わりました。